

原爆文学研究会事務局
〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1
福岡大学人文学部中野和典研究室内
tel:092-871-6631 (代表) /e-mail:nakanok@fukuoka-u.ac.jp

第42回原爆文学研究会のご案内

時下益々ご清栄のことと存じます。第42回原爆文学研究会を下記の要領で開催いたします。皆さまには、ご多忙のことと存じますが、万障お繰り合わせの上お集まりくださいますようお願い申し上げます。

今回は1日目に研究発表、2日目の午前にワークショップ、午後にドキュメンタリー上映および鼎談を行います。会場・資料の準備の都合もありますので、参加をご希望の方は **2013年8月20日(火)までに神戸市外国語大学・山本昭宏研究室(※詳細右下)** までご連絡ください。

記

【1日目】

- 日時 2013年8月31日(土) 13:00～18:30
- 会場 神戸市外国語大学(兵庫県神戸市西区学園東町9-1) 三木記念会館
- プログラム
 - 12:30 開場
 - 13:00 諸連絡・自己紹介
 - 13:20 研究発表1 ジョン・ハーシーの『ヒロシマ』: 形成過程の考察 繁沢敦子
～編集者の役割を中心に～
 - 14:50 (休憩)
 - 15:05 研究発表2 「原爆の子」を読む 中谷いずみ
 - 16:35 (休憩)
 - 16:50 研究発表3 「原爆／原発小説」の修辞学^{レトリック} 中野和典
 - 18:20 諸連絡
 - 18:30 終了
 - 19:00 懇親会

【2日目】

- 日時 2013年9月1日(日) 10:00～16:30
- 会場 神戸市外国語大学(兵庫県神戸市西区学園東町9-1) 三木記念会館
- プログラム1 ワークショップ「ヒバクシャを〈語る〉——核と植民地主義——」
 - 9:30 開場
 - 10:00 司会者から 松永京子
 - 10:10 報告1 マーシャル諸島の米核実験被害の実態 竹峰誠一郎
——グローバルヒバクシャの射程から迫る
 - 10:40 報告2 朝鮮人被爆者を「語る」——韓水山『軍艦島』の場合 楠田剛士
 - 11:10 全体討論
 - 12:00 (休憩)
- プログラム2 記録映像作家・岡村淳ドキュメンタリー上映および鼎談
 - 13:20 司会者から 川口隆行
 - 13:25 ドキュメンタリー上映
「消えた炭鉱離職者を探して・序章(仮題)」+「リオ フクシマ」
 - 15:30 (休憩)
 - 15:45 鼎談 岡村淳、高野吾朗、川口隆行
 - 16:30 終了

【ワークショップ趣意文】

「ヒバクシャを〈語る〉——核と植民地主義——」

かつて小田実は『HIROSHIMA』の「あとがき」のなかで、原爆の原料となったウラニウムがアフリカのベルギー領コンゴの鉱山から採掘されたことにふれ、原爆は「そもそもの初めから侵略、植民地支配、差別、収奪の歴史とじかに結びついたものであった」と指摘した。実際のところ、ウラン採掘、核実験、核廃棄物処理を含んだ核兵器製造過程や原爆投下、そして原子力発電のあらゆる局面において、人種的・社会的マイノリティが搾取されてきた歴史を無視してヒバクシャを〈語る〉ことは難しい。今回のワークショップではまず、〈グローバルヒバクシャ〉の提唱者でもある竹峰誠一郎氏が、マーシャル諸島の米核実験被害を住民の「生活史」の観点から聞き書きで再構築し、住民の抵抗の側面も視野にいれつつ核被害の実態に〈グローバルヒバクシャ〉の射程から迫る。次に、本研究学会会員の楠田剛士氏が、韓水山の小説『軍艦島』を取り上げ、朝鮮人被爆者の強制連行、炭鉱労働、原爆被爆といった大きな問題がいかに人間の生死のありようを問い直しているのかという点について〈語り〉の側面から検討する。核と植民地の問題に焦点を当てながら、ヒバクシャを〈語る〉ことの意義をフロアとともに考えてみたい。

【岡村淳プロフィール】

1958年生 東京都出身。1982年 早稲田大学第一文学部日本史学専攻卒業、日本映像記録センターに入社。「すばらしい世界旅行」「知られざる世界」(日本テレビ)の番組ディレクターとして、ブラジルを始めとする中南米を主に取材。1987年フリーランスとなりブラジルへ移住。小型ビデオカメラを用いた単独取材によるドキュメンタリー作りに開眼後、NHK、朝日ニュースター、東京MXテレビなどで20本以上の作品を発表。1997年からは自主制作によるドキュメンタリー作りを始め、ブラジルの日本人移民、社会・環境問題をテーマとした作品の制作を継続中。自主制作の代表作「郷愁は夢のなかで」(1998年)、「ブラジルの土に生きて」(2000年)、「アマゾンの読経」(2006年改訂)、「あもーるあもれいら」三部作(2007-2012年)、「リオ フクシマ」(2012年)など。現在、記録文学作家上野英信が追った、ブラジルへ渡った元炭鉱労働者の記憶に対峙する「消えた炭鉱離職者を探して」(仮題)を製作中。これまで日本、ブラジル、台湾、アメリカ、チリ、アルゼンチン、オランダで本人立会いのライブ上映会を実施。2013年4月にはエッセイ集『忘れられない日本人移民 ブラジルへ渡った記録映像作家の旅』(港の人)を刊行。日々の活動報告は、「岡村淳のオフレコ日記」<http://www.100nen.com.br/ja/okajun/>を参照。

申込み先詳細

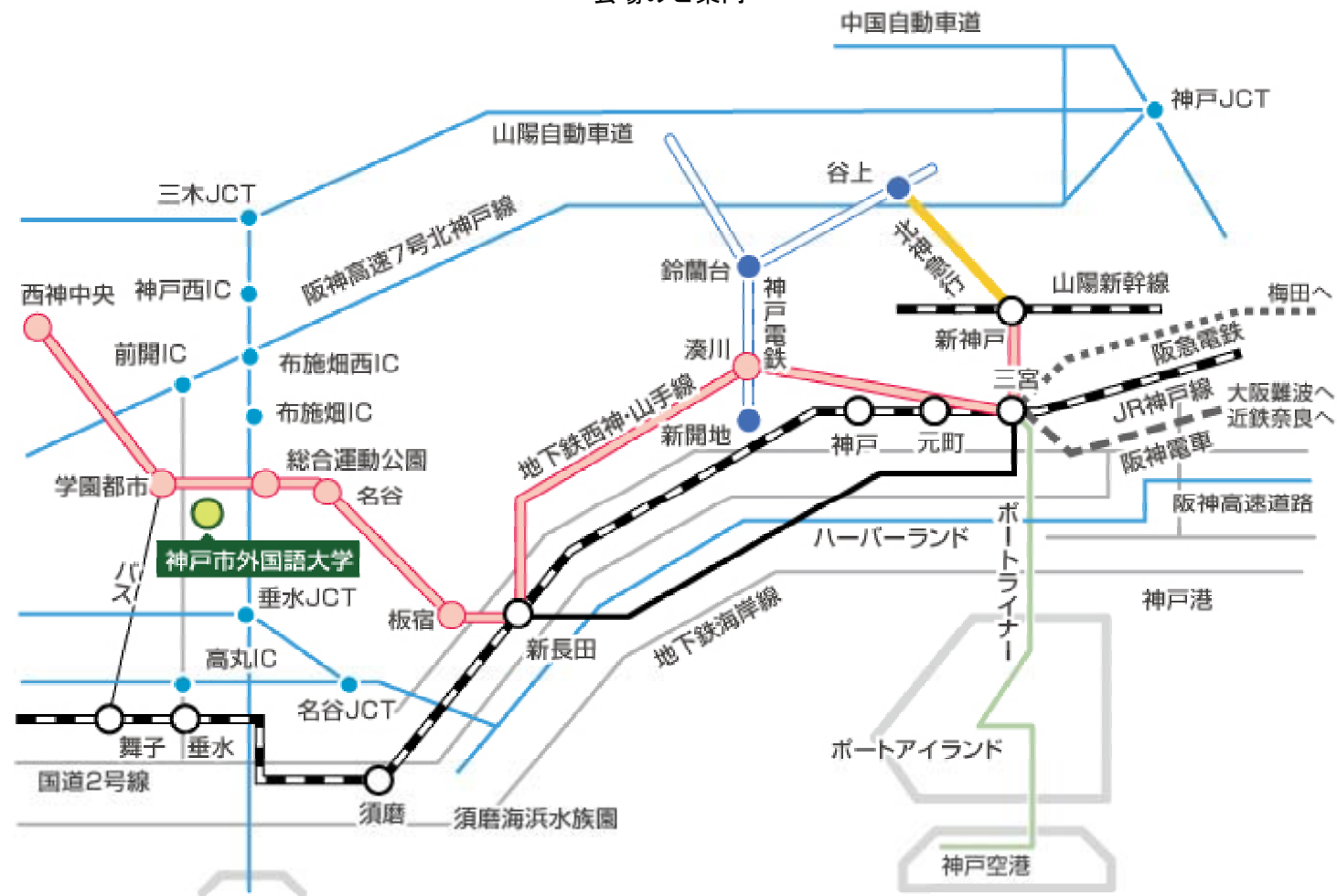
第42回原爆文学研究会への参加をご希望の方は**2013年8月20日(火)までに**eメールかお電話で下記までお申し込み下さい。

なお、申し込む際には①「1日目研究会(8/31)」、②「懇親会(8/31)」、③「2日目研究会(9/1)」のそれぞれについて参加／不参加を明記してください。

【申込み先】

神戸市外国語大学・山本昭宏(やまもとあきひろ)研究室
eメール karimero_karimero@hotmail.com (※「●」を「@」に替えて送信してください)
電話 078-794-8269

会場のご案内



- 大阪から三宮まで…JR「大阪」から「三ノ宮」まで新快速で約20分。
- 大阪難波から三宮まで…阪神電車「大阪難波」から「三宮」まで快速急行で約40分。
- 近鉄奈良から三宮まで…近鉄・阪神直通運転「近鉄奈良」から「三宮」まで約80分。
- 三宮から学園都市まで…神戸市営地下鉄「新神戸」・「三宮」から約25分。「学園都市」下車3分。
- 車で大学まで…第二神明道路「高丸インターチェンジ」北へ10分。
神戸淡路鳴門自動車道「垂水JCT. IC」北へ10分。
中国自動車道、山陽自動車道方面 神戸淡路鳴門自動車道「布施畑 IC」から南へ10分。
- 神戸空港から大学まで…神戸空港からポートライナー、市営地下鉄で約45分。
- バス(1)…JR「舞子駅」から神戸市営バス・山陽バス「舞子駅前」51・53・54系統所要時間 約30分
- バス(2)…JR「垂水駅」・山陽電鉄「山陽垂水駅」から神戸市営バス・山陽バス「垂水駅」48・171系統所要時間 約30分
- バス(3)…JR「朝霧駅」から神戸市営バス・山陽バス「朝霧駅前」50系統所要時間 約25分

